



ロータリー:
変化をもたらす

Rotary



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2840

TAKASAKI SYMPHONY ROTARY CLUB

Symphony Weekly



イアン H.S. ライズリー 2017-18年度R1会長

No. 9

会 長 橋 爪 健
 幹 事 宮 野 孝 之
 クラブ会報委員長 池 田 貴 明
 第 1 週 2017年10月6日(金)
 例 会 毎週金曜日 12時30分
 例 会 場 ホワイトイン高崎
 事 務 所 高崎市本町144-1
 光明第7ビル202号室
 T E L 027-328-3371
 F A X 027-328-3372
 http://www.takasakisympphony-rc.org
 E-mail:sym@po.wind.ne.jp

事務局員 浅見 洋子
 本日のプログラム 会長の日 橋爪 健会長
 ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

- ・神戸東灘RC週報
 - ・ハイライトよねやま210
 - ・前橋問屋センター会館駐車場について(ガバナー事務所来訪時の注意)
 - ・例会変更
 - ・虹にむかって(社会福祉法人三晃福祉会)
 - ・劇場都市vol.2(高崎市文化事業広報誌)
 - ・事務局お休み
- 10月4日(水)、10月16日(月)午後、10月27日(金)

委員会報告

- ・ニコニコBOX
- 白石 隆夫君(副議長になりました)
(9月奥様誕生日祝)
- 西園 勲君(白石さんおめでとう)
- 小野垣義男君(")
- 橋爪 健君(")
- 林 章君(")

・ロータリー財団BOX

- 白石 隆夫君 豊泉 君代君 橋爪 健君
- 八木建司朗君 林 章君 浦野 幸男君
- ・米山奨学会BOX
- 白石 隆夫君 西園 勲君 島崎 真澄君
- 三浦 敦朗君 浦野 幸男君

次回例会予告

第2週 10月14日(土)

地区補助金事業 『上野三碑支援事業』

周辺清掃及び支援品贈呈式

- 集 合 9:00 金井沢碑駐車場 周辺清掃
- 移 動 9:50 多胡碑周辺清掃
- 見 学 10:20 多胡碑記念館 入場・見学(解説有)
- 贈呈式 11:00 多胡碑記念館 三碑のレプリカ前
- 昼 食 11:50 『和膳 おおつ』
- 解 散 13:00

※清掃等ありますので動きやすい服装。クラブ帽子持参ください。

第 987 回例会報告

第5週 9月29日(金)
会員卓話 手島 均 君



御来訪者 0名

出席報告

会 員 数	42 名
出席計算人数	42 名
本日出席者	29 名
本日出席率	69.05%
先々週出席率	休 会

幹事報告

・第6回日台ロータリー親善会議のご案内



ロータリーインターナショナルの標章

金子 秀隆



現在



1912年



1910年



1906年



1906年



1905年

言わずと知れた我々の胸元に輝く標章です。これは1905（明治38）年に生まれました。彫刻家モンターギュ M. ベアが、職業及び専門職業人の新しいグループの徽章として、簡単かつ素朴な形の車輪を描いて、これをシカゴRCへ持参し提供したことに始まります。

ポール・ハリスが、モンティーに対し幾つかの試案の提示を求めた結果、選ばれたのがこの車輪でした。車輪は皆に親しまれ、かつ車輪はRotate（回転）するからでした。これが今日、襟章として、カフスボタンやネクタイとして、その他例会の襟章に、その他いわゆるロータリーを象徴する記号として使われている歯車の始まりとなりました。

モンティーの考案のままの車輪は、その後幾多の改良が行われました。車輪の下の部分に、雲のようなデザインを加えられました。その後、雲の部分の上にリボンをつけ、Rotary Clubの文字を入れました。車輪が現実動いている体裁を整えたデザインにしたのです。

サンフランシスコ、オークランド、シアトル、その他のクラブでは、車輪を取り入れて独自の徽章を考案して使っていました。その幾つかのデザインをここにご紹介しておきます。1910年に16のクラブでロータリー連合会を組織しましたが、定款その他の規定の作成に忙しく、徽章までは手が回りません

でした。

本部はシカゴ・クラブの徽章を便宜的に使っていました。1912（大正元）年ドルースで連合大会を開催するに当たり、全体に共通する徽章で車輪を基本的なものとするデザインを考案するよう、全クラブに呼びかけました。ドルースの大会において、初めてローヤル・ブルー（濃青色）と金色の歯車を、正式なロータリーの徽章として制定したのでした。

その後専門家から、この歯車は技術的に不完全であり、このままでは動かないとの注意が出たので、2人の技術者（ドルースのOscar B. BjorgeとシカゴのCharles Henry Mackintosh）からなる委員会が任命され、技術的に正確に動く歯車が検討されました。

この委員会が考案したデザインは1920（大正9）年正式に採用公布となり、ようやく今日のロータリー・マークとなります。違いが一つだけあります。前記2人の委員が楔穴（Key way）を見落としたことです。これがないと歯車は車軸からの（または車軸への）力を伝えることができなくて遊んでしまうのです。かくして楔穴も付け加えられて、歯車は休止することなく今日まで回転し続けています。

参考資料

『ロータリーの徽章』（ロータリーの友事務所1969年6月）

『ロータリーの友』2002年8月号「新会員ノート」